

# 令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	鶴見区
学 校 名	今津小学校
学校長名	山崎 直樹

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・ 国語
- ・ 算数

### (2) 質問紙調査

- ・ 児童に対する調査
- ・ 学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・ 国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・ 学校では、第6学年 名

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

○本年度の本校の平均正答率は、国語・算数ともに、全国平均を下回る結果となった。国語は全国との差が－3.2ポイント、算数は－7.5ポイントとなっている。ただ、平均無解答率については全国平均無解答率に近づいている。国語は全国との差はなく、算数は＋0.5ポイントである。

○国語では、特に「読むこと」に関する内容が全国平均正答率より－4.5ポイント、「書くこと」に関する内容が－6.7ポイントと差が開いている。

○算数では、特に「データの活用」に関する内容が全国平均正答率より－15.5ポイントと差が大きく開いている。

## 分析から見えてきた成果・課題

### 教科に関する調査より

#### 〔国語〕

◇漢字を文の中で正しく使うことができている。日常生活の中で適切に使うことができるようにするために、宿題や自主学習等で繰り返し練習してきた成果が見られる。

◆「情報の扱いに関する事項」領域の「情報と情報との関連付けの仕方」に課題が見られる。情報活用能力を高め、自分の伝えたいことを伝えるために必要な資料は何かを、目的や相手、状況に応じて取捨選択できるようにいっそう取り組みを進めたい。「読むこと」領域では、「文章を読んで理解したことに基づき、自分の考えをまとめる」に課題が見られる。文章全体の内容を正確に把握する力、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして、文章の内容を短くまとめる力の育成が必要である。

#### 〔算数〕

◆「データの活用」領域のグラフの読み取りや問題解決のために必要なデータの収集に課題が見られる。「図形」領域では、「正方形の意味や性質についての理解」に課題が見られる。図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方をとらえることができる力、さらに面積の求め方について筋道を立てて説明できる力の育成が必要である。□

### 質問紙調査より

◆「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童の割合は全国平均を上回った。84.1％（全国83.5％）

◆「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童の割合は全国平均に至らないものの年々高まってきている。74.5％（全国81.5％）

◆「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童の割合は全国平均を上回った。87.2％（全国85.3％）

◆「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童の割合はほぼ全国と同等。94.7％（全国95.9％）

◆「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童の割合が低い。59.6％（全国69.7％）

上記5つの質問に肯定的な回答をしている児童の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。自尊感情や自己有用感を高め主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に取り組むとともに家庭学習への意識づけも高めていきたい。

## 今後の取組(アクションプラン)

○「自分には、よいところがある」「将来の夢や目標を持っている」「学校に行くのは楽しい」と肯定的回答ができる児童が増えつつある。この傾向を定着するため、児童の心のケア・児童への声掛け・学習環境の改善と充実に学校全体でさらに取り組んでいく。

○全国学力・学習状況調査の問題を活用し、校内研修等を通じて「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に取り組んでいく。特に、以下の項目が授業毎にできているか確認し、できていない場合には積極的に取り入れていく。

・自分の考えを深めたり、広げたりするために、学級の友達との間で話し合う活動を行う。（自分の考えを持つ）

・自分の考えを短くまとめて書き表す活動を行う。（必ず書く）

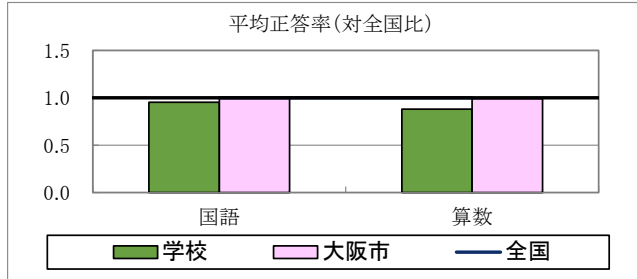
・長い文章や図表・グラフなどを含む情報量の多い文章を読む活動を行う。（あきらめずに取り組む）

○学習規律や学校生活規律を全ての児童がしっかりと意識し実行できるようはたらきかけを継続する。

# 【 全体の概要 】

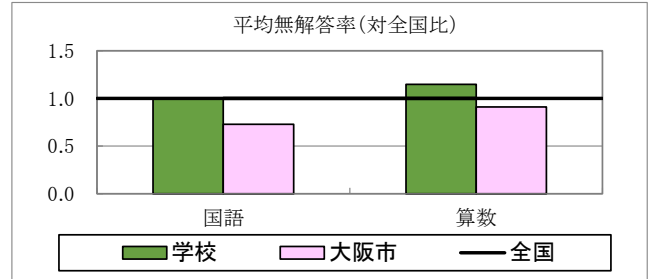
## 平均正答率（％）

	国語	算数
学校	64	55
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5



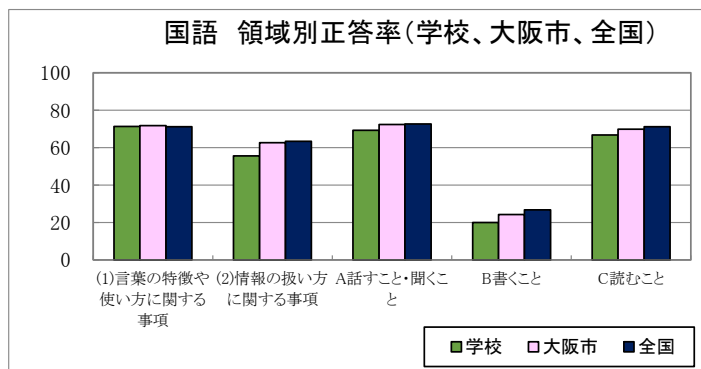
## 平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	4.8	3.9
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4

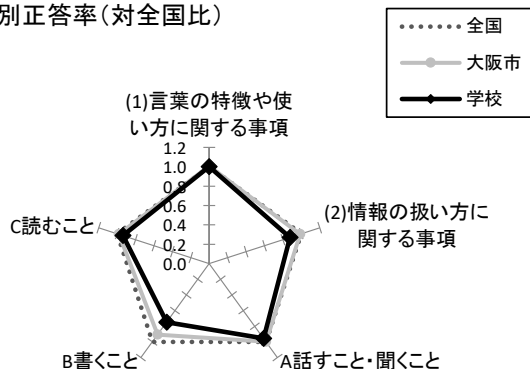


## 【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	5	71.3	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	55.6	62.6	63.4
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	69.3	72.4	72.6
B 書くこと	1	20.0	24.2	26.7
C 読むこと	3	66.7	69.9	71.2

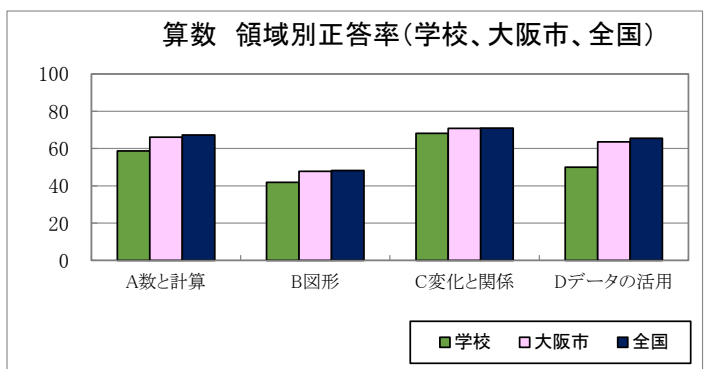


### 国語 領域別正答率(対全国比)

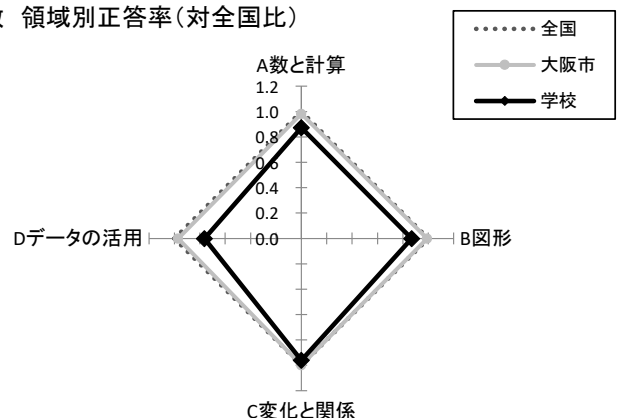


## 【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	58.7	66.1	67.3
B 図形	4	41.9	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	68.1	70.8	70.9
D データの活用	3	50.0	63.6	65.5



### 算数 領域別正答率(対全国比)



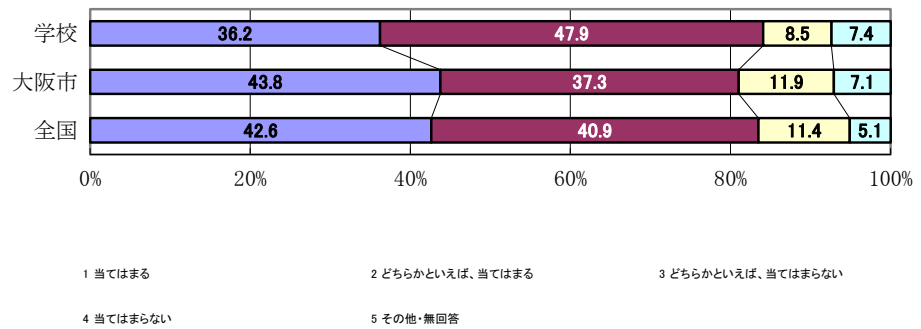
# 児童質問紙より

質問番号

質問事項

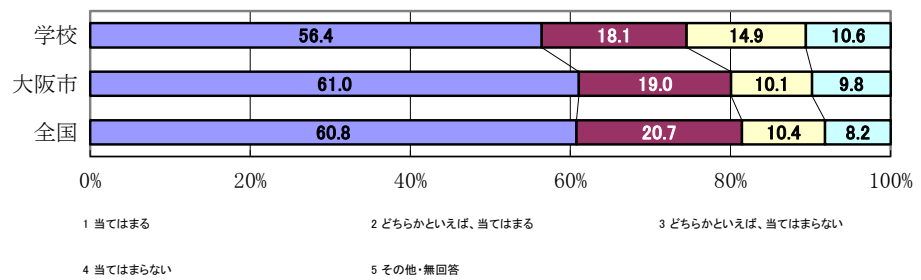
4

自分には、よいところがあると思う



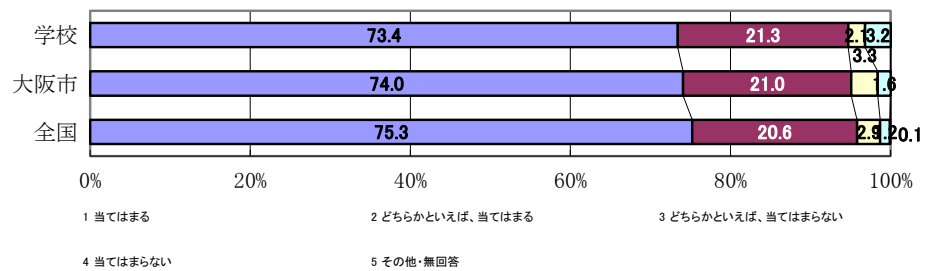
7

将来の夢や目標を持っている



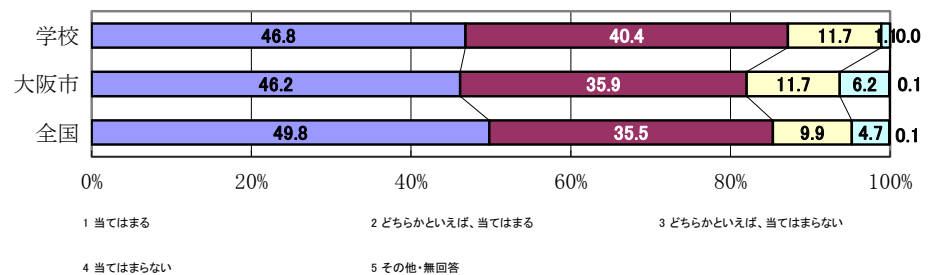
11

人の役に立つ人間になりたいと思う



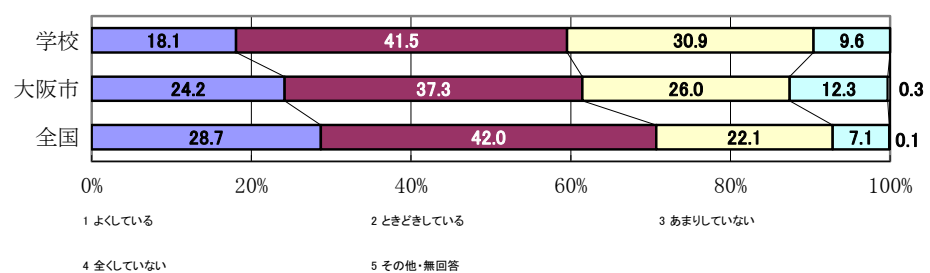
12

学校に行くのは楽しいと思う



16

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含みます)



# 学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

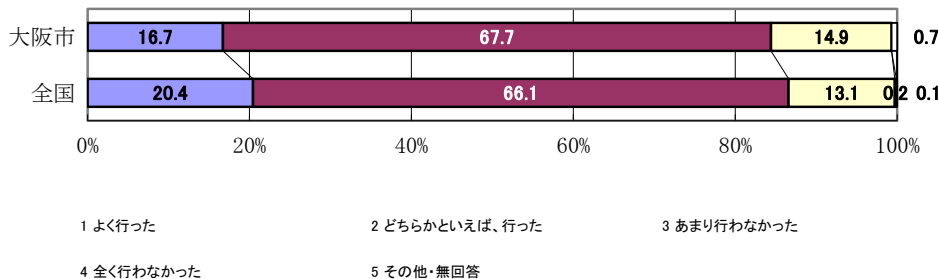
質問番号

質問事項

11

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした

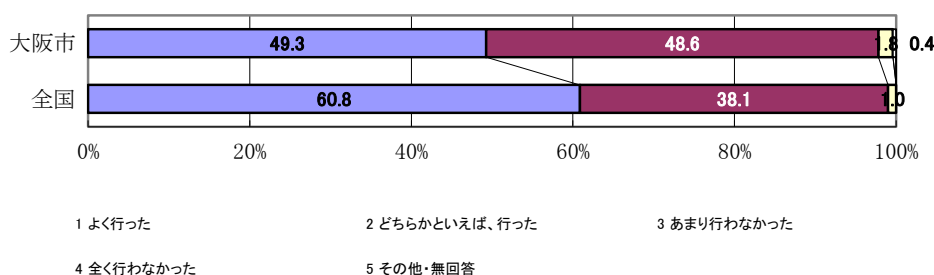
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



13

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行った

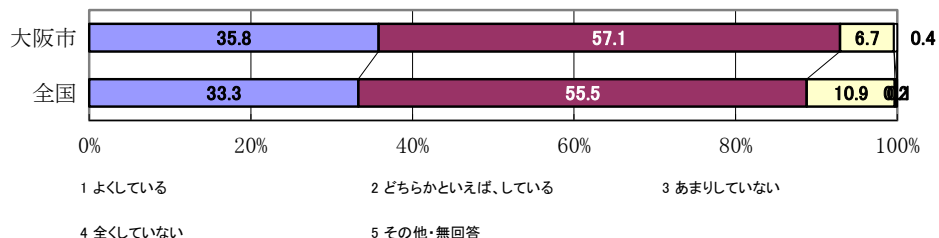
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



23

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている

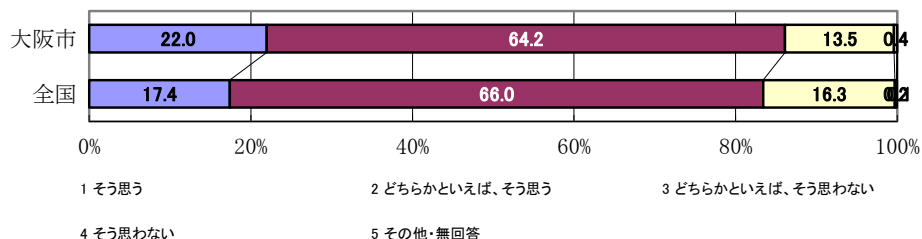
学校 「どちらかといえば、している」を選択



29

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



55

調査対象である第6学年の児童に対する、前年度までのICT機器の活用状況として、あなたの学校では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択

